

【授業記録】第2学年 第4回全体学習 公開授業

主 題 誇り得る「ふるさと」であるために

資 料 「ふるさと・母より」（丸岡忠雄・自作資料）

1994年11月25日（金）5校時

2年E組 授業者 吉成 正士

富加見：板野中学校の全体学習について少し話をしておきます。1990年当時の2年生の学年団の取り組みとして全体学習がスタートして、このように全校生に広がりを見せております。初めの1時間は中央に座っている2年E組が授業公開を致します。次の1時間で、全校生徒がその意見を聞いていて、自分が感じたことや今までの学習の思いをそれぞれが発表し、この全体学習を深めていきます。今日の資料はお手元にありますように、丸岡忠雄さんの「ふるさと」の詩と、それから本校の学習会の保護者の手紙「母より」を資料として、用いて行っていきます。それでは今から始めたいと思いますので、よろしく願います。

「サライ」を合唱する

T1：いよいよこの時間がやってきました。今まで積み重ねてきた「ふるさと」の学習の本当に総まとめとして、この時間をみんなで作り上げ、楽しんでいきたいと思います。まず、これまでに学習してきたいろんな事柄について、前の時間を含めて、今までの時間どんな学習をしてきたかっていうことについて、もう一回頭の中で思い出しておこうと思います。そうやって思い出した事柄に、今日の時間をつなげていきたいと思います。今までに学習したこと、いくつかあげてもらえますか。

ODT（男）：友のことについて話し合って、よく知らない子のことがよく分かって、いい時間だったと思います。

T2：友のことについてもこの学習を通して日頃できてないような話し合いができたように思いますね。

KUM（女）：友達のいいところとか悪いところとかを出し合って、OD君と一緒に、いい時間だったと思います。

T3：OKと似たような発言ですけども、他どうでしょう。どんどんいきましょう。

OKT（男）：自分の夢とかを語った時間。

T4：そんな時間もありましたね。コメントしていきよったらちよっと時間ありませんから、コメント極力控えようと思います。夢について語り合った時間もあつたと思います。他どうでしょう。

NMA（女）：昨日初めてグループに分かれて、その中で、友達と本音で話し合って、それから「ふるさと」の詩の一言一言について、自分が思ったことを言っていました。

T5：この学習をしていく中で、グループ学習っていうものをみんなで考えていく機会になつたんでないかなと思います。

NYK（女）：自分の「ふるさと」のことについて話し合った。

T6：一番初めの時間に話し合ったことやな。

IDY（男）：自分のじいちゃんやばあちゃんやお父さんやお母さんのことについて話し合った。

T7：そんなことについても話し合ったと思います。

NGR（女）：「あばく」っていうことについて勉強していった。

T8：「あばく」ということがどういうことかっていうことについても話し合いをしたな。

HTM：NGさんと同じで「ふるさと」の詩の一言一言に本当に真剣に取り組んでいった。

T 9 : 本当に一言一言を捉えていった学習ができたように思います。

KGK (女) : 「ふるさと」についての自分の思いや「友」のいいところを語ったり、一言一言に対して、自分の思いを語っていったりした。

T 10 : KG自身の発表のな、味のある発表にもなっていた学習でないかなと思います。日頃見えなかった姿やもんな。

MSN (女) : 一番最初に「ふるさと」のことで「ふるさとを隠す」とか「あばかれる」とはどういうことなのかっていうことを話して、ほんでまあいろいろ話して、自分のおじいちゃんとかおばあちゃんとか両親のこととかどう思っとなかっっちゃうんを話して、ほんで友達のこととか話した。

T 11 : ほんなところでよろしいでしょうか。そういった学習をしてきたわけですが、もっともつと言えきりのない話でね、そういったことが今頭の中にポッポッと思い浮かんできたんでないかと、あああんなことしたな、こんなことしたなということが思い浮かんできたんでないかなと思います。そういったことを通して、今日また、もっと深くこの資料について学習していきたいと思います。ほんとにこの資料「ふるさと・母より」っていう資料を学習していく中で私達が、みんなが、お父ちゃんやお母ちゃんに向ける思い、またこのお父ちゃんやお母ちゃんが私たちに願う思い、っていうことについてこの時間、まず話し合いをしていきたいと思います。どうでしょうか。ん？もういつべん？みんながね、お父ちゃんやお母ちゃん、この「ふるさと」の語りかけるお父ちゃん、「母より」でみなさんに語りかけるお母ちゃん、そんなものを通してみなさんのお父ちゃんやお母ちゃんに寄せる思い。またお父ちゃんやお母ちゃんがみんなに願う本当の思い。みんなに一体どんなことを望んどんדרるか。そんなことについて語り合う時間にしていきたいと思います。分かった？どうでしょうか。

HTM (女) : 私のおかあさんはこの「母より」っていう資料そのままなんやけんとな、ほなけんどお父さんは今単身赴任で奈良の方にはずっと行っとなよ。ほんで1カ月にな、3回ぐらしか帰ってけえへんのよな。けどな、電話でな「明日帰るけん」とか言ったらな「え〜」とかごっついめんどくさそうにな、帰ってきたらいろいろお酒の用意とかしたりな、一人でテレビ占領するけんな、帰ってこん方がええわとかいうふう思うとったんよ。いや今も思うとるけどな。けどな、お父さんが1番私が学習会に行くこと反対しとなよ。ほんで私怖くてようきかんけんお母さんに「なんでお父さん行かしてくれんのかなあ」って聞いたらな。お父さんはな、まあ自分が分かってなかったんかもしれんけどな、部落の子でもほんなごっつい差別とか受けてないし、ほんま全然差別受けてなかったんよ。ほなけんな「もうそんな世の中になっとなやけんな、わざわざそのことで頑張る必要はない」っていうんでな、ここに書いてと一緒でな「わざわざ学習会に行っって自分が部落じやっっていうことをみんなに知らせる必要はない」って言うんよ。けどもうみんな知っとなでえ。ほなけん今さらほんなこと言うてもあれなんちゃうんかなあって思うんやけどな。

T 12 : 今言ってくれたことについても深めていきたいなと思うんやけども、とりあえず、発言につなげて思いをつなげていこか。

AKT (男) : ちょっと話変わるんやけんとな、僕の家の方が僕にどんなこと思うとうかって考えてみたらな、いつも「勉強せえ」「勉強せえ」ばっかり言うてな、勉強できたらもう何でもいいわって感じでな、いつも言われるけんな、僕が親になったらって考えたらな、やっぱりな、勉強より1番に優しい人とかになっってほしいしな、なんか家の人は僕に優しい人とか、ほういうんになっってほしいないんかなって思うんやけんとな……。

STY (女) : うちの親な、AKくんといっしょでな、勉強のことしか口に出さんのんよ。ほんでな、なんかもう成績さえ良かったらほれでいいけんな、ほういう感じでいつも言うんよな。ほなけんどな、やっぱり優しさとかがな、あった方がいいと思うんよ。勉強できてもな、性格悪かったら嫌やしな、ほなけんな、勉強のことばかりでなくて、他のこととかでもいろいろ話しして欲しい。

NGR (女) : あんな、この部落問題学習がある度にお母さんとちよつと10分かほれぐらい話するんやけどな。私ようお母さんに聞くんよ。私がもし部落の人と結婚したらどうするって言うたらな、いつも言ようようにな、「ほんなん自分のことやけんな、周りのことや気にせんと自分で決め」とか言うんよ。ほんで私はほれを聞いてきとるけん何も思わんのやけどな、なんか他の子聞いたたら、なんかすごい反対されよる子っておでえ中には。「ほんなんだったら結婚せられん」みたいな、「恋愛もあかん」みたいな感じで言われよるけど、私んちはほんなんないけん何とも思っていないし、何か親が私に思うとること分かるような気もするけど分からんような気もするんよ。ほなけん、なんか言われよる子の立場が分からんていうか、逆に親がほの子に求めよることも分からんし、私は、ほういうこと聞かされてきよるけん、親からほんなんはやめときなつて言われたことはないけん、言われた子の気持ちは、はっきり言うてあんまり分からん。

MSN (女) : お母さんは、私自分の夢は漫画家でえ、で、ずっと勉強もほとんどせんと絵ばっかり描っきよんよ。ほれでやかましいに言うんやけどな、けど別に夢の反対していないし、もし漫画家になりたいんだったら勉強もちやんとして高校にもちやんと行って、できるようになれるように頑張りつて言うんよ、お父さんとはほういう話し全然せんのよ、ほんなに話しもせんし。けど私が頼み事があつたら絶対聞いてくれるんよ。ほんであんまり怒つたりもせんし、優しいなと思う。

T 13 : MSがな、漫画家の話をしだしたつていうんはな、夢の発表からつながってきたような気がするんよ。その前から自分自身も変わつていったんかもしれんけど、やっぱりあそこら辺ぐらいからこの学習をしていく中で、なんかな、自分の心の持ち方つていうものが変わつていったんでないんかなつて、そんな気もしたりする。そこら辺のところもつと考えていけたらなと思います。

IDY (男) : 僕はある面な、自分の親尊敬しとんよ。ほれはな、僕のお父さんが部落の出身でな、お母さんと結婚する時にな、お母さんの親から反対されたんよ。ほなけどお父さんはな、ちやんとお母さんのお父さんとかに話してな、結婚許してもらたんよ。ほなけんほんな面すごいと思うし、尊敬しとる。

NMA (女) : あんな、NGちゃんが言よつた反対されとる親つていうんがうちの場合やけど、昨日も塾休んで1時間半ぐらい話ししよつたんやけど、結婚の話で話ししよつたら、最後の方で結婚の事についてはどこまでいっても平行線じゃつて言われたんよ。(涙)ほんでごつつい辛かったんよ。ほなけんどな、1パーセントでも望みがあるんだつたらな、説得していきたいつて思う。

AKT (男) : うちんくのな、家の人もな、部落の事について話ししよつたらすごいいつもの表情とは全然違うんよ。なんか、すごい怒つたように言うしな、なんか、結婚も絶対したらあかんて言うしな、なんかごつつい言い方やけん、自分はほなけんほんなん間違うとるつて言えんのよな。ごつついほんな自分悔しいんやけどな、やっぱりこの問題に関わつとんだつたら、ここで頑張らなあかんなど思います。

T 14 : ほんとに全員の思いつていうのがどんなのかつていうことをお互いが確認し合う、そんな

学習をやっぱりすべきだと思うし、そんな学習にこれからもずっと先していきたいなと思います。37人おるうちのほんとに一人が、ものが言えない、またその子の思いが分からない、そういうんじゃないかって、みんながみんなの思いを理解し合えるような、そんな学習をするべきだと思うんです。そのための学習なわけですから、しっかりと今話してくれた子たちの思いを受けて、発言を繰り返していきたい。そういうふうに思います。

NGR（女）：私もIDみたいにお父さんが部落の人でお母さんが違うんよ。ほんでなんかIDんちみたいなんでないんやけどな、私んちお母さんなんも反対されんと、親にも何も言われんと結婚したけん、ほういうところすごいなって思ったし、お母さんだけがすごいんでなしに、周りの人がよう反対せんかったなってすごいごっつい尊敬する。

NTY（男）：あんな、僕の親はな、よう勉強せえとか言うんよ。ほんなん言うてくれんでいいのに。ほなけど部落問題の時とかだつたらな、真面目に話ししてくれるんよ。ほなけん学習会にも行くなとか言えへんしな、結婚の時やって好きな人選んでくれたらほんでええしとか言うんよ。ほなけん、ほんなようにな、これからもずっと一緒に親とかと話しできたらいいなと思います。

ODT（男）：昨日、今日の全体学習のことについてお母さんと話し合っていたんだけど、なんか昨日お母さんに僕が1番に発表するけんとか言うたら、お母さんが「どんなこと言うん」て言うてきたんよ。ほなけん「ようけ言うけん」とか言うてな「言葉あかんかったら直したげるけん」とか言うてきたんよ。ほなけん僕はこういう学習にきれいごとにもないと思ってるから「ほんなん関係ないでえ」って言い返したんよ。ほんでなんかあんまり関心がなさそうだったけん関心持って欲しい。

HTM（女）：さっき私お父さんうっとうしいって言うたけどな、けどやっぱりIDくんみたいに尊敬しとんよ。ていうかな、お父さんな、お母さんとの結婚が決まるまで自分が部落じゃっていうこと知らなかったんよ。多分24・5歳と思うけどな。ほの歳まで知らなかったんよ。でな、自分が部落じゃって知らんていうことは自分は部落でないって思うとることになるでえ。ほんでな、お母さんが部落の人じゃって分かつともな「ほんなん関係ないでえ」って言うたんや。でな、自分の親に説得しに行こうと思うとつたんや。自分の親は自分が部落っていうことは一言も出さんけん、すごい差別者みたいに思うとつたんや。自分の親が。けどな、話してみたら自分も部落じゃっていうことな、めでたしめでたしみたいな形になってしもうたんやけどな、けどやっぱり「部落じゃ」っていうことを「関係ないでえ」って言うたお父さんはやっぱりすごいと思う。すごいっていうかそれが普通なんやけどな。

T15：ちよつと言葉尻捉えるようで嫌なんやけど、考えて欲しいことで「関係ないでえ」って言うてくれたけど、別に否定して悪いていうんでなくて、これみんなに考えて欲しいことなんやけども「関係ないでえ」ってほんまに関係ないんかいな。どうやろ。ほんまに関係ないんやろうか。

NYK（女）：「関係ないでえ」って、HTちゃんのお父さんはほんなつもりで言うたんじゃないかもしれんけど「関係ないでえ」って言うたらなんか無関心なような気がする。HTちゃんのお父さんはほんなつもりで言うたんじゃないと思うけど。

HTM（女）：あんな、今聞いたんやけどな、もしお父さんがな、部落だろうが部落でなからうが関係ないって意味で言うたんだつたらな、ほれはほれでいいかもしれんけどな、もし今NYさんが言うてくれたみたいな意味で言うてくれたんだつたらむかつくっていうか、嫌いになるっていうか。

T16：ちよつと待って、今のもう一回、もう1回言うて。

HTM (女) : ほなけんな、お父さんが「関係ないでえ」ってただ一言だったけどな、ほれが「部落だろうが部落でなかろうが、ほんなことは関係ない」って言うんとな「僕には関係ない」みたいな、無関心な意味で言うたんだったらな、お父さんのことむかつかつていうかな、嫌になるっていうか、いっぺんじっくり話ししてみたいっていう気になる。

AKT (男) : ほの時に「関係ないでえ」って言うてな、済ませたんだったらおかしいと思う。「関係ないでえ」って言うて、やっぱりほんまに関係ないと思うんだったらな、もっと言うことあると思うしな、ほんなんだったら、単なる「関係ないでえ」って言うだけだったらな、やっぱりほの人の前で格好つけとるっていうような感じだけと僕は思う。

T17 : あれ思い出すなあ。立候補の時のんな。なんかあれ思い出すなあ。

NGR (女) : もしな、ほんまHTちゃんみたいにな、部落か部落でないんかがほんまに「関係ないでえ」って言うんだったら私やもほんま許せるけど、NKちゃんみたいになんか無関心で「知らん～」みたいな感じでもし無関心だったら私やがごっつい腹立つて言うか、HTちゃんみたいになんか一緒に怒りを持つていう感じ。

T18 : だんだん分かってきた。だいぶ扉が開いてきた。それぞれのグループいいですか。今の件に関して。ほらもっと話ししていこうと思うたらきりないだろうけども、いいですか。これまた後でね、話して欲しいことなんですけども、また後で時間としてするけど、学歴社会っていうやつな。今何人か言うてくれたけど、家に帰ったらお父ちゃんもお母ちゃんも成績の話しかせえへん。ほなけん成績の話しかせえへんから、もういやになって、家の人と話しができないっていう状況やと思うんやけども、学歴社会っていうことに関して、もっともつとこれからね、部落問題学習を通してこれからね、考えていく必要があるような、そんな気がするんです。ちょっと本題に戻っていきたくと思います。もう一つ話し合う点を今日考えておりました。みなさんの心の中にある「ふるさと」が一体この資料のどことどうつながってどう重なっておるんかについて、残りもう後20分ぐらいしかないんですよ。早いもんでもう20分ぐらいしかないんですけども、みなさんの心の中にある「ふるさと」について、話し合いをしていきたくと思います。それがこの資料のどことどんな重なりがあって、どんな思いを持っているのかについて、お互いが討議をしていく中で、深めていきたくと思います。どうでしょう。

NGR (女) : 初めこの資料をもらった時に、一番初めに「ふるさと」ってどう思うかって聞かれた時は、なんか旅行行った時に帰ってきたらホッとする所って思うとったけど、だんだん月日が重なってきて、勉強していくうちに、なんかやっぱりこの丸岡さんが一番最後に書いてるみたいに、やっぱりちよつと名乗れん部分があるなって思って、次の世代っていうか、私やがもし子ども生んだ時は、ほんまに名乗らせたいなっていう気持ちはある。

IDY (男) : 僕はまだな、自分の「ふるさと」言うんにちよつとためらいがあるんよ。ほんでどっか遊びに行つとつても「どこの子」って聞かれてもちよつとドキッとするんよ。ほんなとこがな、丸岡さんといっしょと思う。

T19 : 自分の心の中にある「ふるさと」にふれて、しっかりとこの時間、思いを語り合っておきたいと思います。

HTM (女) : あんな、どっか遊びに行つとつたりしてな、住所書く時にためらいとかはないんよ。けどな、近所のな、知らんおばあちゃんとかが挨拶したらな「あんたどこの子？」とか聞くでえ。ほん時相手目の前にしてな、住所どこつきかかれたらなんかドキッとするんよな。けどな、私は自分の「ふるさと」っていうか、近所がすごい好きなんよ。もうちよつとすぐ出たらたんぼがあつてな、秋とかすごい金色できれいな、ほなけんそういう景色がすごい好

きなんよ。窓からもたんぼ見えるしな。ほなけん、なんでほんな、自分の好きな「ふるさと」がな、どこですかってきかれてもな、自慢にできんと隠すみたいでウツてなるようになってしまふかなって思うんよ。

T 20: そのことを深めていくがこの学習の本当の意味につながっていくんでないかなと思います。そのことについてもっともっと深く考えていきたいと思います。

AKT (男): 僕もな、自分の「ふるさと」言うん別になんちや思えへんけどな、やっぱり自分の「ふるさと」言いくい子がおるんだったらな、やっぱりなんで自分のな、一番誇りとしとうもんをな、ほのことを言えんのかなと思うてな、ほの気持ちは分からんでもないけどな、やっぱり自分の「ふるさと」を言えていうんはなんか悔しいけん、いつかは自分の「ふるさと」が堂々と言えようになつたらいいのになと思った。

T 21: 人それぞれみんなそうやろうと思うけど、自分の腹の中にあるどす黒くて汚いものが、いつの間にかはびこってしまって、それが本当に誇りたいもの、本当に誇らしいもの、本当に陽の当たる表に出したいことを、覆い隠してしまって、表に出せない。それって一体何なんだろうかな。そういうことを、しっかりと、自分の中にある、本当に誇り得るもの、誇り得るべきもの、ということに目を向けて、それが誇れない理由、そういうことについて考えていかなんだらいかんのでないかな、そんな気がしたりします。もっともっと聞いていく中で、考えを深めていきたいと思います。どうでしょう。一人も取りこぼしのない、隙間のないような、そんな授業をしていきたいと思います。

MSN (女): 私は今までどこか旅行とか行って「どこの子？」とか聞かれたことないんよ。それでどんなかよう分からんけど、もし聞かれて、聞かれても答えれるとは思ふんよ。もし答えたとして、相手の反応、顔色変えたりするんだったら、むかつくんやけど。初めて会った人と話し合いつていうんは、できんかもしれんけど、なんでほういう態度とるんみたいな感じに言うていけて、他の「ふるさと」を名乗りにくい子とかおるでえ。ほの子やがちゃんと名乗れるようなかんじにしていきたい。

KGK (女): 「ふるさと」を好きなんやけど「どこの子？」って聞かれた時、板野って言うて嫌な目された時、ごっつい逃げだしたあなつて、何も言い返せなんだんやけど、やっぱりあの時に、何か言い返せたらよかつたつて思うし、ほんまに誇りもつとんだつたら言えたとと思うんやけど、あの時言えんかって、今でもむかついとるけど、やっぱり言えるようにしたいし、この最後の3行みたいに、もし自分の子どもが部落に住むんであれば、板野っていう町を胸張つて名乗らせたい。

KUM (女): 私もどこか行った時に「どこから来たん？」て聞かれるけど、相手の人の反応を気にしながら「板野」って答えたら、嫌な目で見られた時あったんよ。ごっつい悔しいて、KGといっしょでな、逃げ出したあなつたんやけど、ほなけど、これが私の「ふるさと」ですつて勇気をもって言いたい。

T 22: なんで誇れんの？なんで板野であることを誇れんの？なんで板中であることを誇れんの？なんで？

AKT (男): 僕はほなけん、相手はどう思うとるかつていうんが気になるんよ。板野やけん部落があるなとか。ほなけんとな、今はごっついほういうこと言う方も聞く方も悪いと思うんやけんとな、やっぱり自分も堂々と言えんでえ。ほなけんやっぱり自分にもごっつい腹が立つ。

NGR (女): あんな、「ふるさと」つていうんが誇りに思えんのな、なんかもし言うでえ私やが「ここじゃ」つて「板野」つて言うでえ、ほしたら相手の反応すごい恐いでえ、ちょっとしたことでも「えっ」ていう感じで。ほなけんやっぱりほういうん見ていつたら反対に頑張ろ

うっていう気にならんと「もう絶対言わんところ」っていう気になってしまうけん、やっぱりちょっと誇りには思えんていうところがある。

IBM (女) : 私は今まで板野が嫌や思ったことがないし、板野に生まれて良かったなって思うとったけど、どこか遊びに行っとった時に、あるおばさんから聞かれた時「板野」って答えた時は別に嫌って思ってなかったし、もし言われても言い返そうって思うとったくらい、ほのきいたおばさん腹立ったけど、言い返せんかった自分がごっつい悔しいけん、ほなけん、この部落問題学習頑張らんとあかんなって思います。

HTM (女) : 私は自分の「ふるさと」誇りに思うとんやけんど、知らん人にな、正面きって「ふるさと」の名前を堂々と言えんのよ。いっぺんな、旅行行とってな、板野駅から歩いて帰るんしんだいけんな、徳島駅まで乗ってな、そこからタクシーに乗って帰ろうとしよったんよ。ほの時に、板野駅に着いた時にな、反対側に座とった40才くらいのおばさんやがな、旅行行とったんかしらんけどな、4人ぐらい座とったんよ。ほならな、板野駅に着いた時にな「ああここが噂の板野なんやな」って言うんよ。「噂の板野」って言うんよ。でな、なんで噂なんかなってパッと睨んだらお母さんがな「ほっときな」って言うんよ。ほれがなんかごっついむかついてな、なんかほういう人ばかりがおるんだったらな、自分の「ふるさと」が胸張って言えんていうか、相手の反応がすごい気になって、誇りに思うとう「ふるさと」でも、人前に立ってっていうんかな、全然知らん人の前に立ってな、正面きって言えんのよ。

T 23 : みんなの意見が聞きたいから。これだけはくれぐれも言っときます。でないと、分かり合うことできんから。かんまんのよ、手え挙げて。手挙げるんはかんまんのよ。手挙げる中で、みんなの思いや考えを聞いていきたいから。でないと、分かり合うことでけへんから。いきたいと思います。

NMA (女) : あんな、今日先生が言うてくれたことなんやけどな、板野が悪い所って言われるんは、部落がいっぱいあるけんていうて「部落があることを言わんかったらいいん違うん」ていう話しが出来たって言うたでえ。ほんでほれが部落があるっていうことを否定しとるっていうこと言うたでえ。で、私もそう思うんよ。部落がないって言うたら、あるのにないや言うんは絶対おかしいし、ほれにやっぱり変と思うんよ。部落がなかったら、ほれだったら堂々と「板野」って言えるんかなって思うんよ。

T 24 : ほな俺やには誇るもんがないんか？俺やには誇るもんがないんか？俺や板野町民や板野中学校の者は、誇るものがないんか？今まで「ふるさと」の資料で学習してきたことは一体何やったんだろうか？私やに誇るもんでないんか？どうやろ？顔を上げていかんかな。胸を張り、瞳を上げてやっていかんかな。

STY (女) : 朝、先生が言よったことでな「部落があることを隠したらいける」っていうこと言よったでえ。僕はな、隠さんでもいいと思うんよ。別にな、部落があつたってな、何にもみんなと変わったところないしな、みんな普通の子やしな、別にほんなに悪口とか言わんでもいいと思うんよ。ほんでな、僕な「どこから来たん？」とか聞かれたことないんやけどな、もしほういうこと聞きかれてもな、絶対「板野」って言えるしな、なんか嫌な顔されても言われても、否定できたり言い返せると思うんよ。自信ないけど、多分言えると思う。僕は板野に生まれてきたこと誇りに思う。

T 25 : 嘘つきやめよな。ほなってそうやろ。お父ちゃんのこと誇りに思う。お母ちゃんのこと誇りに思う。また、様々な差別に苦しんでいく中で、おじいちゃんやおばあちゃんがそんな、自らの命を絶つことなく、堂々と堂々と生きれんかったかもしれんけども、それでも喘ぎ

ながらも一生懸命生きてきたと思う。うちの組にしたって、自分の血肉をほんまに絞って、振り絞るようにして、絞り出すようにして、自らのことを語ってくれるわけだ。堂々と語っていくわけだ。それが誇りなんやったら、板中や、板野町民であるっていうことは、ほんまに誇れるはずでない。けどなんで誇れんの？おかしいやんそなん。嘘つきやそれ。よう分からんようになってきとるかもしれんけど、俺は絶対誇らしいと思うよ。私は。誇らしいって言って、別に周りの子を蔑むつもりはないけど、板中の子とかよ、板野町の人とかめっちゃめっちゃ誇らしいと思うしよ、すごい好きやしな。昔は先生やって「板野中学校？」とか「板野中学校って悪いんやろ？」とか聞かれた時「ほんなことないよ」としか言えなかったけど、今はちやうよ。ほなって、みんな見よつたらほんな気せえへんもん。みんなのお父ちゃんやお母ちゃんの生き方聞つきよつたら、そんな気せえへんもん。絶対誇らしいと思ひ、信じ、そうやって言っていきよるよ。みんなどうや。みんなどう思う？ほんま今住んでる所が、今自分が生活している状況が、また今まで生きてきたいろんなことが、誇りとして自分の中に芽生えていかなんだら、丸岡さんのこの詩を学習した意味っていうのが、薄れてしまうんでないかなって、そんな気する。みんなどう思う？

AKT (男) : 自分の「ふるさと」を誇りにするちゆうんは別に変なことでもないしな、なんか板野を変に思うとる人おるでえ。ほんなんあの人やが悪いんやけん、やっぱり、自分の「ふるさと」を誇りにしとぅつちゆうんはな、これからもずっとこの意志を持ち続けたい。

MSN (女) : ほら板野には部落の人いっぱいおるけど、ほんま部落の人やいうたってなんちやほの人が悪いわけでないし、みんな同じ人間でえ。で、私板中の特にこの2Eのクラスがごっつい好きなんよ。ほなけん休みの日とかあつても「なんであるんな」みたいな感じで、ほんま先生といっしょで誰もおらんでも学校に来たあなるんよ。まあ、好きな人もおるし、すごい楽しいんよ。好きな人が休んどつたとしても、いっしょに話しする友達がごっついい子ばかりで、ほんま何でも話していけて、すごい楽しいんよ。ほなけん、この学校が好きで、ほんでこの学校を変に思う人がおつたら、ほんまにちゃんと「ほんなことない」とか話しができていけたらいいなと思う。

MKY (女) : 私のほんまに生まれたところは、石井町なんよ。ほんでいつのまにか板野町に来て、この板野中学校に来て、この今の2Eのクラスで今全体学習できることが、ほんまに誇りに思えます。

KHM (女) : 私が生まれた町のに、ほやってよその周りの人が「板野」って言うたら変な目で見られるっていうんはすごい腹立つし、みんな板中におる子みんな板野に生まれとんのほやって変な目で見られるんは悔しいし、腹立つし、ほれに悪い人ばかりでないし、板中の子みんないい子ばかり……(嗚咽)。私、2Eの子みんな大好きやし、ほんま悔しいし、ほやって板野を変な目で見るとる人にもし合つたら、ちゃんと「板野はいい所じゃ」って言えるようにしたい。

NMA (女) : 私は、板野っていうんを誇れん。だつてな、部落多てな、普通やつたらな、差別やしよらんはずのにな、ほれのに友達がうちに来たらおばあちゃんは「どこの子？」ってきいてくるし、ほんなんしよんのに、誇れん。

T26 : 今の最後のNMの発言を、6時間目の問題提議としてさらに深めたいと思います。すまんがHI、人権劇の最後の言葉発言して。演説の最後の文章。

HIY (男) : 私たちは今泣いている時ではありません。大人も子どもも一斉に立って、この嘆きの原因を打ち破って下さい。光輝く新しい世の中にして下さい。

T27 : 6時間目、もつともつと話し合いを深めていきたいと思います。終わります。